

ぼく食べられたよ！

ねらい ○ まわりの人の思いを知る。

○ 好き嫌いなく、食べることの大切さを知る。

今日もなかよし幼稚園では、子どもたちが元気いっぱい遊んでいます。

なおくん、みくちゃん、たっくんもなかよく遊んでいます。

おもいっきり遊んだ後は、みんなで力を合わせておかたづけです。

お部屋も園庭もピッカピカになったころ、なおくんのおなかがグーッ！と鳴りました。

そろそろお弁当の時間です。

「わあい！やったあ！お弁当の
時間だ！」

♪お弁当お弁当うれしいな

何でも食べましょ よくかんで～♪

「いっただっきまあす。」

おなかがすいたなおくんは、急いで
お弁当のふたを開けました。



すると、とつぜんなおくんの手が止まりました。

笑顔が消え、困った顔でお弁当とにらめっこ。

なおくんのきれいなピーマンが入っていたのです。

なおくんは、おかあさんが言ったことを思い出しました。

「なおくんのためにいっしょうけんめいお弁当を作ったから、今日も残さず
に食べてくれたらうれしいな。」

（おかあさん、あんなこと言ってたけど……。ピーマン嫌いだしなあ……。

食べなくちゃいけないかなあ。でも、食べなくてもいいや。)

「あ、残しちゃだめだよ。」

と、横にいたみくちゃんとたっくんが言いました。

でも、なおくんは

「残してもいいんだもん。」

とつよがって、とうとう残してしまいました。

家に帰ったなおくんは、何も言わずにお弁当箱を洗っているおかあさんのうしろ姿を見ました。

(おかあさん、早起きして作ってくれたお弁当なのに……。ごめんね。)

その夜、なおくんは不思議な夢を見ました。

大きなピーマンお化けが泣いているのです。

「エーン、エンエン……。ぼくはなおくんにきらわれているんだ。

なおくんと友だちになりたいのに。エーン、エンエン……。」

にんじんお化け、たまねぎお化け、トマトお化けも出てきてなおくんにらみつけながら言いました。

「もったいない。もったいない……。」

「ピーマンお化けが泣いているじゃないか。どうして、ピーマンを残したんだ。」

「好ききらいをしない強い心をもっていないのかい？」

「強い体にならないぞ。」

「丈夫な体にならないぞ。」



そこで、なおくんはおかあさんに夢の話をして、どうしたら食べられるようになるか相談しました。

おかあさんも一緒に考えてくれました。

「ピーマンお化けのさみしいっていう気持ちが、なおくんに通じたのね。じゃあ、おかあさんも、どうしたらピーマンと友だちになれるか考えるから、なおくんもがんばって食べてみようか。」

「うん ——。」

お弁当の時間、なおくんのお弁当には、大好きなハンバーグの上にいろいろな形に小さく切ったピーマンがのっていました。それを見たなおくんは、またピーマンとにらめっこ。

その時、夢の中の野菜たちのことばを思い出しました。

今日のなおくんは、この前とはちょっとちがいました。

「丈夫な体になるんだ。おかあさんがいっしょうけんめい作ってくれたんだから、がんばって食べてみよう。」

ちょっとピーマンを口に入れてみました。

その様子に気づいたみくちゃんとたっくんが、

「なおくん、すごい！食べられるようになったの？」

「よかったね。」

と言ってくれました。

「うん。ぼく、もう何でも食べられるよ。好ききらいはしないんだ。ピーマ



ンお化けもかわいそうだしね。」
と照れくさそうに言いました。
「ピーマンお化け？」



みくちゃんとたっくんは顔を見合わせて、何の話だかわからないので不思議
そうな顔をしていました。
「ううん、何でもないよ。」
なおくんは、おかあさんのよろこぶ顔がはやく見たくなりました。